

ほんの少しの思いやり

米山 莉永

「すみません、あの駅に着いたら教えてもらえませんか」

走る電車内でそう話しかけてきたのは、盲導犬を連れた女性だった。介助者はいなかった。

席に座らず、電車の一番後ろの車両のあきスペースで、女性たちは私の隣に立っていた。

三つ先の駅で降りたいと言われたので、はいわかりました。と二つ返事で引き受けた。

そういった頼みごとをされるのは二回目だ。

五年前のそのとき、私は今度は気を付けようと思った。今度こそ失敗しないようにしよう。

と。ずっと昔、小学校中学年くらいの頃だったと思う。昔住んでいた街の駅で切符を買おうとして駅の運賃の掲示を見ていたら、女性がやってくる私に問うた

「すみません、あの駅に行くには幾らの切符を買ったらいいですか？」

私はびっくりして女性を見た。そして何と言ったら分からず、しばらく女性の前で固まつてしまった。駅の掲示を見ればわかるのに、どうして聞くんだろう？ と思ったのである。女性は困っている。私も困ってしまった。すると、すぐに側にいた大人の女性がやってきて、女性に話しかけてくれ、親切に切符販売機のほうへと誘導してくれた。女性はその大人の女性に、文字が読めないんです、すいません。と謝っていた。私はそれを聞いて、自分の不足をひどく痛感した。そうか、文字が読めなかったのか。私のせいで嫌な思いをさせてしまった。どうして柔軟になれなかっただろう。もうどうにもしようもないが今でもその時の激しい後悔をよく覚えている。

それからもう二年以上経った。確かっ先の駅は降りる人の量は多くないけれど、降りる時電車とホームの間に段差があったりして

危ない時もあったはずだ。私は女性に、次の駅ですよと告げる。女性が降りるの見守り、一緒に降りようと思った。どうせ急がないし、見送ってから電車を待てばよいのだと。しかし私は、自分の事ばかりでその先のことをきちんと考えていなかった。

一緒に電車を降りると、降車する客たちで一瞬ホームはごった返す、階段を上る人降りる人それぞれ乱雑に歩き始める。私と盲導犬を連れた女性は、電車を降りた。足元気を付けてくださいいねと言ったら、盲導犬は賢くてしっかりと主人を誘導していてとても感心した。

そんなふうのにんきなことを考えていると、盲導犬を連れた女性が言った

「すみません、エレベーターはどこですか」  
不安そうな声だった。私が居なくなっただと思  
ったのかもしれない。一方、私もあわてた。  
「エレベーターですか、ちよつと待ってくだ  
さいね」

そうは言うが、周囲を見回してもエレベーターは見えないし、階段はあってもエレベーターのエの字どころか看板もないのだ。なんだこれは、私はびっくりした。エレベーターが必要な方のためのエレベーターなのに、すぐにわからないのでは、意味がないじゃないか。女性に、探してきますので待っていてもらえますかと、考えあぐねた末に言葉をかけてから、走って行ってしまった電車をしり目に、歩く人を掴まえてエレベーターはどこですか？と聞いてまわった。多くの人はすみませんわかりませんと言っすぐに行ってしまった。やっと見つかったエレベーターは、ホームの微妙な、とても分かりにくい位置にあった。私はずっと待っていていた女性の元に戻り、大汗をかきながら申し訳ない思いで案内をした。エレベーターにはちょうど年配の女性たちが乗り込むところだった。女性たちは私たちを見かけると、気を使って一緒に行きましよう、大丈夫ですよ。と言って、盲

導犬を連れた女性を誘導してくれた。私はお  
気を付けて。と言って、女性を見送りながら、  
内心いたく反省していた。  
正解などないのだろうが、私たちが出来る  
のは、気を付けるとか、失敗しないようにす  
るとかそういうことではなく、ほんの少しの  
思いやりを持つことだと思う。文字が読めな  
い障害を持っている方は、文字が読めない。  
それがどれだけ不便なのか、私には想像もつ  
かない。ただ、昔いた街で出会った女性は駅  
の運賃表示が読めずに苦労していた。電車に  
乗れないだけでなく、それが街中の看板、ス  
ーパー、家の中、電話まで行くとどうだろう。  
どれだけの苦労なのだろう。  
あの盲導犬を連れた女性は、少なくとも目  
があまり見えない方だったのだと思う。見え  
ないということがどれだけ不安な事で、目が  
見えない中知らない場所で一人になるという  
ことが、どれだけ辛い事なのか、あの頃の私  
にはそれもまた、全く想像がつかないことだ

った。ただ、駅の表示案内だってエレベーターを設置場所のわかりやすい看板を付けるな  
ど、もつとできることがあるはずなのだ。だ  
けど無理をする必要はない。ほんの少しの思  
いやりでいい。

無理のない、ほんの少しの思いやりが世界  
をもつと良くしていくはずだ。

私はこれから考え続ける。ほんの少しの  
思いやりを持ち続けるために。